道徳通信

貝塚市立第五中学校
平成２６年度　第１号

１学期を振り返って、どの道徳の授業が印象に残っていますか。

６月２１日、四天王寺大学准教授　杉中先生に記念講演をしていただきました。

講演の初めには、『心とはどこにありますか』という問いかけがあり、「頭」「胸」「上半身」などの答えや、「人と人との間に生まれるもの」などの地域のかたの意見を聞かせてもらうことができました。

なぜ道徳の授業を受けるのかという点では、道徳の授業により「気づく力」を育てていくことができるというお話でした。“気づく力”により、他者への思いやりのこころを育て、人間のよりよい生き方についての自覚を深め、よい人間関係を築いていくことにつながるそうです。

講演の後半では、小学校で使われている『森のともだち』という資料を用いて授業をしていただきました。授業を通して“気づき”があり、「友だちとはどんな人」という考えを深めていくことができるものでした。

毎週の道徳の時間を大切にし、『自分を見つめる』時間、『道徳的価値を自覚する』時間、『主体的に道徳的実践力を身につけていく』時間にしていきたいと考えています。

～「私たちの道徳」～

今年度、道徳の教科書「私たちの道徳」が一人一冊配布されました。この「私たちの道徳」は、児童生徒が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとして作成されています。

この教科書にはさまざまな著名人のメッセージや言葉が掲載されています。ページをめくる楽しみも感じながら使っていきたいと考えています。

２学期には、教科書の中に掲載されている資料を用いて道徳の公開授業を実施します。

～今年度、各学年で特に大切にしていきたい目標～

１年生

・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる

・友情の尊さを理解して、心から信頼できる友だちをもち、互いに励まし合い、高め合う

2年生

・多くの人々の善意や支えがあることに気づき、それらによって日々の生活や現在の自分があることに感謝する気持ちを育てる
・自己が所属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める

3年生

・自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ
・自己が所属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める

1学期に行った1年生の道徳の授業を紹介します。『発車、オーライ！』

あらすじ　特急バスにうっかり乗ってしまった乗客に頼まれ、乗務員は規則違反の場所ではあるが、ブレーキテストということで停車し降ろすことを決断した。

ねらい　それぞれの置かれた立場での考えを理解し、寛容な心を育てる。

発問　このバスガイドさんや運転手さんの行いをどう思いますか。

感想

バスガイドさんがブレーキテストと言ったのは、皆を不安にさせないために言ったのだと思います。「峠でおじいさんを降ろしたら危ないんじゃないか」という気持ちを少しでもまぎらすために言ったと思います。ブレーキテストなら皆も納得するし、規則違反にもならないからです。

やさしいとは思うけど、してはいけないと思う。規則は規則だからしてはいけない。早く次の停留所につかないと間に合わないという人もいるだろうから、やさしくしてあげたくてもしてはダメだと思う。

バスガイドさんと運転手さんは、とてもいいことをしたと思う。おじいさんのことを思ってしっかり考えて、どうしたら規則で決められた以外の場所に停められるか考えたから。規則を守ることは大切だと思うけど、無理なお願いをきいてどうすれば規則を破らないようになるかを考えることも大切だとわかった。

規則を考えながらお客さんのことも考えており、バスの中に広がるあたたかな情景が浮かび上がるような資料でした。